



謹賀新年

あけましておめでとうございます
何を私たちは目指すのでしょうか？一緒に考えましょう！

医療法人 岐阜勤労者医療協会理事長 みどり病院院長 松井 一樹



新年あけましておめでとうござい
ます。

医療で言えば、新聞報道があつたように、一昨年の県立3病院の赤字額が56億円、岐阜市民病院が16億円と、とつともない額となつています。

一昨年の日本原水爆被害者団体協議会のノーベル平和賞受賞はとても感動的でした。しかし、残念ながら、いよいよ日本は社会保障を切り捨て、戦争をする国の準備に入りアメリカを追従します。と思いきや、昨年のアメリカ、ニューヨーク市での、トランプ政権に抗う民主社会主義者マムダニ市長誕生には、とても勇気づけられました。

さて、日本では、軍備拡大のあおりを食って、医療・介護・福祉、教育、そして私たちの暮らしも物価高騰で苦しい思いをしています。

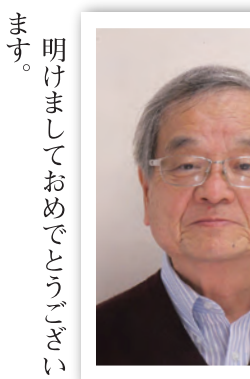
戦間機が岐阜の空を轟音響かせ飛んでいます。戦闘機1機、飛行時間1分で燃料費10万円以上かかります。全国には300機以上の戦闘機が配備されています。ブルーインパルスは弧を描いて美しくありますが、どれだけの燃料費がかかっているのでしょうか？このわずかに1分の燃料費は、入院患者一人の2日分に相当しています。今、県立高校で問題になっている教育用タブレット、2台購入できます。

医療機関をまもり、「憲法9条」をまもる運動を広げよう

岐阜健康友の会 会長 大塚 研二



きた新みどり病院の3年目、すこやか診療所歯科の2年目になります。



多くの人に声をかけ語り合い、粘り強く建設運動を続ける中で、民医連の医療の良さに共感が広がり、新しい仲間が増え、新みどり病院と歯科診療所は地域のより大切な医療機関になってきました。

2026年は、いのちの平等を保障し、だれもが安心してかかることができる医療の発展を目指し、職員、友の会、地域の皆さんと建設運動に取り組ん

でいます。今年度の大きな課題の一つは、全国各地の大切な医療機関をまもりぬくことです。建設運動の経験を活かし、ひとりでも多くの人に声をかけ、「医療機関の維

持存続を求める請願署名」への協力を呼びかけましょう。軍事費を増やし医療と教育を減らす流れを変え、戦争も軍備もなくす道を示す憲法9条をまもり生かす運動をより広めることも重要な課題です。11月3日の「ぎふ平和のつどい」で、ジャーナリストの青木理さんは、「戦争をしない国であり続けるために、9条の会や市民運動が息つき、攻撃や制限を受けるメディアで頑張るものへ声援を届けることの大切さ」を語りました。

大砲よりバターの頑張り時です

華陽診療所 所長 岩井 雄司



政治で少数与党化した自民党と維新連合)は非核三原則を亡きものにしようとする。一層の軍事費増を公言する始末です。大砲などに負けてたまるか、バター(国民経済/福祉/教育)の頑張り時です。

2024年秋の日本被団協ノーベル平和賞受賞は、日本平和外交が世界に打って出る絶好の機会でした。しかし日本政府は核兵器禁止条約の諸会議にオブザーバーとしても参加しませんでした。逆に高市新政権物価高に追いつかない賃金、裏金金権

「日本人ファースト」ではなく「国際協調：地球人ファースト」をモットーに

こがねだ診療所 所長 森 逸治



新年あけましておめでとうござい
ます。

昨年この紙面でお知らせしまし
たが、一昨年夏以降、登山に励んで
おります。

昨年は大菩薩嶺から神々しい富士
山、鈴鹿セブンの御池岳の愛らしい
シマリス、滋賀蓮葉山からの琵琶湖

地域の皆さまの健康を支えるパートナーとして

一般社団法人 ファルマネットぎふ 代表理事 中澤 千寿



新年あけましておめでとうござい
ます。近年、医療は高度化し、効果
が高い一方で副作用が出やすい薬も
増えております。また、普段服用さ
れているお薬との飲み合わせが治療
に影響することもあります。当法

人5つの薬局(しいのみセンター、しいのみ、華陽しいのみ、南しいのみ、静里しいのみ)では、大学病院などの専門病院から処方される薬にも対応し、薬剤師が丁寧に説明しながら安心して服薬いただけるよう努めています。お薬に関する疑問や飲み合わせ、体調や生活習慣に関する健康相談も、どうぞお気軽にお声がけください。

最近では年賀状を出す人が減っています。理由ははがきではなくスマホなどの挨拶がふえていくことや、高齢化も因でしょう。ところで今から四十年前ほど前に、その年賀状をやめようという通告をいただいた方がいました。差出人は下呂金山の養鶏農家の中島正さん。理由は資源の無駄であること。「山中無暦日」めでたさを要する正月は阿片であると。すこし過激ですが、本人は納得とした語りで農の哲学者という風情でした。実は、その三年ほど前に、生協の「夏の生活講座」で「卵の話」という講演をしていただきました。ちなみに、この講座では当時のみどり病院の笹谷院長にも「動脈硬化の話」をしていただきました。中島さんは全国的にも知られている「自然卵養鶏」のバイオアで、アマルウエルフェアに反する無窓鶏舎での工業的養鶏を批判し、太陽の光と雑草(緑餌)を主とし、輸入飼料に頼らない養鶏法を提唱しています。当時、その卵は市販の卵の三倍の価格でした。中島さんが亡くなられてからしばらくその養鶏は途絶えていましたが、お孫さんのパートナーである中村さんが、そのあとを継ぎ、現在約600羽で、中島さんの養鶏技術に忠実に自然卵養鶏を続けています。中村さんは東京(渋谷区)生まれ、東京育ちの都市生活者でしたが、結婚し金山の地で、まだ三十代ですが、農的な生活に確信をもつことができています。す。ちなみに彼が生産する卵は一個100円。一日に生産する量が限られていますが、需要は安定しているようです。彼は地域の様々な活動に積極的に参加しています。中山間地での過疎化、高齢化等で、地域の疲弊が進む傾向がありますが、中村さんのような存在は、その地域を変えていく希望となっています。「田園回帰」の流れは、まだ多くはないようですが、確実に増えています。(K)

健康春秋